

☆めざせ事故ゼロ

12月は

障害事故 0件

賠償事故 0件

(安全管理委員会)

大丈夫 かける言葉と 思いやり

西東京シルバー ニュース

第108号

平成24年(2012)1月15日 発行

公益社団法人 西東京市シルバー人材センター

東京都西東京市中町1-6-8

(保谷東分庁舎内)

TEL. 042-425-6611 FAX. 042-425-6644

メールアドレス wtokyo1@sjc.ne.jp

http://www.sjc.ne.jp/wtokyo1/index.htm

迎春

2012年

働くことを通じて高齢者の生きがいと健康づくりをすすめ
活力ある地域社会に貢献しています

飛躍の年に



当センター名誉会長
西東京市長 坂口光治

平成24年を迎え、皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、西東京市が誕生して10周年、貴センターにおかれ
ましても設立10周年を迎えました。さらに、4月1日からは、
公益社団法人として新たな一歩を踏み出し、将来を展望しつ
つ様々な事業展開を行い、地域に貢献されてきました。合併
当時は約18万であった人口も19万8千人に成長し、活力に満
ち溢れた「生活文化都市」へと発展しております。これもひと
えに、市民の皆様並びに貴センター関係者の皆様のご理解、
ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、平成27年(2015年)には、4人に1人が65歳以上
の高齢者という超高齢社会の到来が予測されています。すで
に4万人の高齢者が暮らす西東京市ですが、安心して暮らせ
る高齢社会を支える組織として、これまでの人生で培ってき
た知識・経験を地域で生かし、地域社会に貢献できるよう事
業展開を行う貴センターの意義はますます重要となってい
ます。これからも、市民生活のさらなる充実と「健康長寿の
まちづくり」の実現に向け、貴センターの皆様の一層のご理解
ご協力並びにご活躍を期待したいと思いますので、どうかよ
ろしくお願いいたします。

むすびに、貴センター関係者並びに会員の皆様のご健勝と
ご多幸を心から祈念いたしました。新年のご挨拶とさせてい
ただきます。



忠実な就業

公益社団法人 西東京市シルバー人材センター
代表理事 会長 下栗庸隆

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年は新公益法人に移行という大変大きな節目を無事越えてスタートしましたが、本年は更に充実した一年にしたいと思えます。センターの組織については新公益法人にふさわしい新しい組織に変えて行こうと、組織再編検討委員会の熱心な検討で来期から新組織をスタートする予定です。今まで以上に機能的で効率的な組織の運営が定着するよう皆様のご協力をお願い致します。会員の皆様には新年に当たり改めてシルバー理念の自主・自立、共働・共助、をチェックして頂きたいと思えます。

自主自立とは、センターの運営の基本ですが先ず身近なことから自身の就業の時間の管理を自主的にキッチリ行う、仕様書通りの仕事を定時まで行い、間違いなく働くことが自主自立の第一歩です。

共働共助の第一歩は、急に就業出来なくなった時お互いに気持ちよく代わってあげる。そして声を掛け合い助け合って就業し、発注者の期待に応えるのがわれわれの仕事であります。

しかし、この頃特に自己管理や助け合いの働きぶりに自分の主張ばかり強く言ったり、市民や発注者に対し不適切な対応や、また仕様書や事務局職員の指示通りに仕事をしなかったために、クレームとして市役所やセンターに通報が来て対応に苦慮しています。

シルバー人材センターを取り巻く状況は厳しく、NPO法人初め似たような団体や民間企業も高齢者労働の事業に進出してきています。このような高齢社会の競争の中で就業を守って行くためには、発注者の信用を落とさぬことが第一であり、会員としてはこれまでの人生で培ってきた知識経験を生かし、指示された通りの就業を忠実に実行して実績を上げて行きたいと思えます。

就業の適正化

代表理事 副会長 澤田壽弘

平成24年の新春を迎えて、今年一年の取り組むべき課題について簡単に触れたいと思えます。

昨年3月11日に東日本大震災が発生し、設立十周年記念式典等は中止いたしました。千年に一度とか、想定外とか、未曾有の出来事とかのフレーズがメディアに散見されました。

当シルバー人材センターに於いても、重篤事故の発生、就業時の不祥事の発生、不適正な就業等々が連続して発生致しました。いずれも対応を間違えますと、受注業務の取消し、就業機会の喪失は言うに及ばず、西東京市の財政支援団体である当センターの存在そのものが問われかねない、想像を超える事柄ばかりでした。まさに当センターにとっては想定外の連続

でした。

今年、不祥事の発生の根絶を最優先・最重要課題とし、「就業の適正化」グループ就業の意味、就業の心得、適正な就業時間、適正な就業人員数、就業の質的向上、職種別就業者の研修等自主・自立、共働・共助の基本理念に立ち返り、基本事項の見直しとその徹底化に注力すべきと考えております。

昨年4月1日に公益社団法人の設立登記を済ませ、活動を開始いたしました。東京しごと財団の指針に基づいて、組織再編検討委員会を設置し、専門部会、委員会の見直し作業を精力的に進めているところです。3月の理事会に提言をし、承認を頂いた上で、4月1日付で新組織を発足させる予定です。

予期しない事柄に適切に対応するためにも、新組織は、固定的なものではなく、柔軟で、迅速に行動できるものを、と考えております。

会員の皆様方におかれましては、センターを取り巻く環境の厳しさ、センターの財産は、会員、理事、監事、班長、副班長の人的なソフトウェアであることをご認識頂き、我々の「センター」のますますの発展と、皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

社会奉仕活動と危機管理意識を期待して

業務執行理事 常務理事・事務局長 白井清美

平成24年の新春にあたり、会員の皆様にごあいさつ申し上げます。

昨年は、百年に一度の民法の大改革の一環として、公益社団法人への移行認定という激動の意義ある年でした。本年は新法人になって2年目になりますが、会員の皆様は日常の就業に関して何か変わったなと感じている人は少数ではないでしょうか。確かに就業内容等には大きな変化はございませんが、新法人の会員として意識を持ってほしいことが二つあります。

一つ目は、定款の事業目的に社会奉仕活動が明記されたことです。この活動が移行認定に必要不可欠な要件でした。本来社会奉仕活動は自主的に行うことですが、当シルバー会員は、就業することと同様に社会奉仕活動に積極的に参加することが義務として課せられました。

従いまして、理事会や事務局からの社会奉仕活動への呼びかけがありましたら、他人事と思わず積極的な参加をお願いいたします。

二つ目は、危機管理意識を持つことです。公益社団法人は、公益に関する事業を行い営利を目的としない団体です。市民からは、市役所と同じ目線で見られています。自分たちの税金を使って就業している団体であると思われているといっても過言ではありません。特に公共事業については、市民が税金を投入して請け負っている仕事と思われ、納得するような仕事ぶりが見られなければ、信頼度が薄らぐのは当然です。今までどおりの就業を見直し、絶えず危機管理意識を持ってください。

本年も社会・経済状況が依然として厳しい年が予想されますが、会員一人ひとりの責任感を期待して、新年のあいさつとさせていただきます。

平成23年の歩み

- 1月 会員交流会新年会(シチズン時計食堂)
- 2月 第2回会員接遇研修会(参加者40名)
- 3月 第5地域会員研修会(東久留米市)
- 4月 地域班長会議(SC事業運営室)
- 5月 健康増進セミナー(きらっと・参加者19名)
- 6月 臨時理事会(SC事業運営室)
- 7月 臨時地域班長会議(SC事業運営室)
- 8月 公益社団法人に移行
- 9月 第1回臨時理事会(SC事業運営室)
- 10月 地域合同防犯パトロール(参加者16名)
- 11月 安全標語入選者表彰式(SC事業運営室)
- 12月 平成22年度会計・業務監査(SC事業運営室)
- 1月 市主催ごみゼロ運動(286名参加)
- 2月 学校校内外清掃就業推進協議会(SC事業運営室)
- 3月 公益法人第1回定時総会
- 4月 田無駅周辺自転車指導員会議(インゲビル)
- 5月 安全就業推進連絡拡大会議(東京しごとセンター)
- 6月 第5地域安全就業推進の集い(小金井萌え木ホール)
- 7月 安全強化月間就業現場パトロール
- 8月 熱中症予防対策ネットワークラー配布業務
- 9月 認知症サポーター養成講座
- 10月 学童交通擁護就業推進協議会(SC事業運営室)
- 11月 小学生対象夏休み無料手芸教室(SC事業運営室)
- 12月 理事・監事・班長合同研修会(保谷庁舎研修室)
- 1月 組織再編検討委員会を設置・分科会発足
- 2月 設立十周年記念事業「感謝の集い」委員会設置
- 3月 行政から個別指導
- 4月 学校施設管理業務就業推進協議会(SC事業運営室)
- 5月 自転車関係リーダー会議(SC事業運営室)
- 6月 設立十周年記念事業感謝の集い(アスタ2階)
- 7月 老人会主催ごみゼロ運動(270名参加)
- 8月 武蔵野女子学院主催感謝のつどいに参加
- 9月 FM西東京「ランチボックス」出演(FM西東京スタジオ)
- 10月 地域合同防犯パトロール(47名参加)
- 11月 アスタ関連、放置自転車整理担当者会議(SC事業運営室)
- 12月 第11回市民文化祭
- 1月 地域班長会議(SC事業運営室)
- 2月 中間監査(SC事業運営室)
- 3月 西原総合教育施設防火管理協議会(西原総合教育施設)
- 4月 第11回市民まつり(西東京いこいの森公園)
- 5月 第5地域理事監事研修会(アスタ市民ホール)
- 6月 民間の大口得意先訪問(6社)
- 7月 会員交流会親睦旅行(戸倉上山田温泉)
- 8月 市長へ業務報告および要請
- 9月 就業適正化「説明相談会」開催(SC事業運営室)
- 10月 田無駅踏切事故防止ボランティア

社会奉仕は活動の基本

踏切事故防止ボランティア実施

田無駅東踏切で事故防止活動

12月14日から28日の間、田無駅東側の踏切で延べ90名の会員が事故防止のためのボランティア活動を行いました。

昨春秋以来西武線の各地で人身事故が頻発しており、田無駅構内とこの踏切でも3件の事故が発生しました。このため、田無警察署から当センターに協力の要請が来たものです。当センターでは、会員に呼びかけて年末のあわただしく、寒さも厳しい時に急きよ体制を組み、期待に応えました。

これまでのボランティア活動では、春秋の地域合同防犯パトロールや、ごみゼロ運動への参加

組織再編成について

はじめに

当センターは、昨年4月から公益社団法人に移行したことにより、社会的信用が大きくなった一方で、市民に対する使命と責任が増大しました。

また、当センターの運営に携わる理事会が、法的には公益法人の「機関」と位置付けられ、その役割と責任が極めて重いものとなりました。

こうしたことから、公益法人に相応しい組織・体制を確立する必要がありますが、昨年7月の理事会で組織再編検討委員会を設置しました。その分科会が精力的に討議を重ね、案を固めて11月の理事会に提案、基本的事項に

の活動を展開していくことが期待されています。

感謝の言葉

田無駅ガード下駐輪場

7月には高齢者の熱中症対策事業で市民の方々の絆を深め、ささえあうネットワークづくりの一端を担うことができました。これからは、公益社団法人として、さらに積極的な地域貢献

就業会員の合議で、駐輪場内のブロックごとにナンバー付けをして、利用者の皆さんがどこに自転車を置いたのかをわかり易くしました。市民の方から感謝の言葉が寄せられました。

平成23年度 第8回 理事会報告 12月26日開催

一、西原作業所の移転は中止

西東京市福祉部の萩原障害福祉課長が理事会の初めに、西原作業所を当SCが継続使用できる旨説明されました。

二、事務局職員の給与等に関する規程の一部改正(引下げ)を承認しました。

二、事務局職員の給与等に関する規程の一部改正(引下げ)を承認しました。

三、前年度までの会費未納者

38名について、退会を確認しました。(本紙3月号に掲載)

四、年末年始等緊急連絡網を作りました。

職員リーダー↓担当理事↓事務局長↓各担当職員、というルートです。

五、第2回会員研修会(1月21日開催)は、定員オーバーで締切りました。

切りました。予約をしていない方は入場できません。

六、就業5年制限

公共部門の該当者は104名。民間部門の該当者はなお調整中です。(1月15日までは決まりません)該当者には、郵送にて通知します。

七、全戸配布宣伝チラシ

後任者公募の締切りは1月末を予定しています。

八、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

九、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

十、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

十一、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

十二、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

十三、1月28日の新年会には、市

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

から坂口市長ほか3氏が出席されることになりました。

平成24年度から実施しようとしている新しい組織の骨格が固まりました。まだ、修正点や今後決めていくことも多々ありますが、その概要を報告しご理解いただきたいと思います。

組織図(案)

現時点で、最終的なものではないかもしれませんが、新しい組織図の案を右下に示します。

改組の内容

現在の4専門部会(総務・事業・広報・女性の4部会)と常設の3委員会(安全管理・組織活性化・就業開拓)を、組織図にある各委員会に改組します。

これはセンターの運営にある程度まで各専門部会に委ねている現在の「委託審議方式」を改め、委員会が検討事項を理事会に提案する方式にしていこうとするものです。

理事会がその権限と責任に基

づき、会を理想的に運営していくことを企図しています。

各委員会等の役割

次に、それぞれの委員会の任務と役割について記します。

組織委員会

組織委員会は、会員に関する事務を取り扱います。この中に、研修とボランティアを除く現在の総務部会、および広報部会の任務も継承します。

事業推進委員会

事業に関する事項を取り扱います。職群・職種が多岐にわたることから、幅の広い守備範囲を担当する委員会です。その内容としては日常的な就業対策から、新規の開拓、独自事業の検討などが挙げられます。

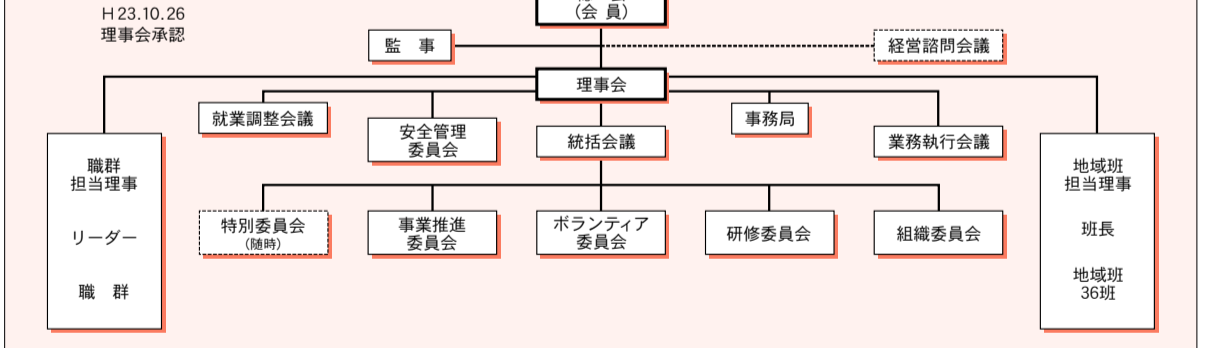
安全管理委員会

安全管理委員会は、上部団体との関係が深いことから、組織図(案)では、他の委員会とは別の位置に記しています。

特別委員会

特別委員会は、随時必要に応じて開催される、あるいは設置される委員会です。前者には理事・監事選考委員会があります。

組織図(案) H23.10.26 理事会承認



統括会議がパイプ役

これらの委員会と理事会との間に統括会議を置き、当センターの円滑な運営と、効率的な業務の遂行を図ります。

今後の予定

新組織を、名称、内容をも含めて確定し、それに合わせた規程を作成します。また、各組織の陣容とメンバーを決定し、4月1日から実施する予定です。(組織再編検討委員会 岩崎英身)

ねんりんふるさと

私は長野県大町市で生まれ育った。北は白馬岳から、南は槍ヶ岳まで続く雄大なアルプス連峰は、素晴らしい景色である。

雪解け水を集めた清流の仁科三湖はキラキラと輝き、水しぶきをあげる滝からのマイナスイオンで、疲れ心が癒される。

春は桜、リンゴ、桃の花が一斉に咲き、山には新緑の中に山桜、こぶしの花、水をはった田んぼには北アルプスの山々が映り、思わず足を止めてしまう。

新潟県糸魚川から松本市を結ぶ「塩の道・千国街道」がある。戦国時代、上杉謙信が武田信玄に塩を送ったときにこの街道を使ったと言われている。塩の道の暮らした文化を伝えていく「塩の道博物館」が、信濃大町駅から歩いて3分程のところにある。

現在は味噌と醤油の製造販売をし、昔使用されていた道具等が展示されており、多くの観光客が立ち寄っている。5月の連休には「塩の道祭り」が開催され、新緑の中、大勢の人々が歩く姿が見られる。

昭和46年に信濃大町と富山を結ぶ立山黒部アルペンルートが開通し、毎年夏には観光客と登山者で賑わっている。

大町市には大町温泉郷と葛温泉があり、秘境の雰囲気をかもし出す癒しの宿がある。

年1回の同級会では、大町の級友たちとの昔話に花を咲かせている。

(柳沢 進)

公益法人の幕開けと大震災に立ち向かう

激動の2011年

平成23年は東日本大震災を始めとして、自然界にも人間社会にも、大きな出来事が続きました。そうした中で当センターは公益社団法人に移行するとともに、様々な課題に取り組んできました。

十周年記念式典を中止

3月11日の大震災の発生で急きよ臨時理事会を開き、17日挙行予定の記念式典を「延期」、式典の前に行う予定の定期総会は、発送済みの召集通知どおり開催することを決めました。このことを会員全員に周知するため、地域班長の皆さんを個別に事務所呼び、下栗会長から、説明とお願いをいたしました。なお、十周年の記念誌と記念品は、後日お配りすることにしました。



(写真提供は西東京市)

3月の定期総会

社団法人としては最後の定期総会はこうして開催されました。大きな余震も続いており、計画停電も予告されているさ中でしたので、会員からの動議を容れて、総会議案書と重複する説明を省くなど議案の審議を手際よく進め、短時間で議事を終了し閉会しました。

被災地への支援活動

義援金の募集



義援金を市長に贈呈

3月下旬から、主に会員の皆さんに呼びかけて募金活動を行いました。そして、6月16日開催の第1回定時総会の会場で、大勢の出席会員が注目する中、下栗会長から坂口光治西東京市長に、その時までの募金額の中から65万円を、お渡ししました。募金額は昨年末で、合計911,612円となりました。

支援物資の受付業務

西東京市は震災発生直後から様々な支援活動を始めました。その一つ、市民の皆さんから支援物資の提供を呼びかけ、3月下旬に総合福祉センターで実施しました。当センターからは期間中の連日、会員をボランティアで送り、受付業務に協力しました。

公益社団法人スタート

平成23年4月1日、当シルバー人材センターは公益社団法人となりました。社会的信用が格段に高まったと同時に、市民社会に対する使命と責任が一層重くなりました。

新法人の役員には、認可申請のため22年9月の臨時総会で選任されていた17名の理事と2名の監事が就任しました。法に定められた代表理事に下栗庸隆会長と澤田壽弘副会長が、業務執行理事には白井清美常務理事・事務局長が就任しました。

第1回定時総会開催

6月16日、第1回定時総会がこもれびホールで開催され、平成22年度の事業報告と決算が承認されました。また、3名の新理事を選任しました。



公益社団法人になったことにより定時総会は年1回となり、開催回数表示は今後は連番となります。

設立十周年の記念式典開催は難しい状況となりましたので、この総会で記念誌と記念品をお配りしました。

熱中症対策事業

高齢者熱中症対策事業は、市（高齢者支援課）から委託されました。6月15日現在で75歳以上の単身の世帯の方々に「ネットワークラー」の配布と見守り」を目的として、猛暑が続く日々の中、7月中旬に会員153名が6022名の方々に面接配布しました。多くの方々が概して穏やかに受けられました。

見守りでは大切な情報が数多く報告されました。この仕事

高齢者を地域で支えあうという仕組みづくりには大きな貢献ができました。



家具転倒防止器具 取り付け事業



高齢者や障害者等で器具の自力取付けが困難な世帯の方を支援する仕事で、22年に続き市から受託したものです。3月の東日本大震災の影響で申込者が大幅に増加、現在の当SCのこの事業登録人数では至難というところで、大工さんに限らずに、日曜大工レベルの会員も再々募集して、SCで研修を行って、受注分は全うできる体制が整い、鋭意作業継続中です。

公益法人の幕開けと大震災に立ち向かう

シルバー十周年 感謝の集い

当センター設立十周年感謝の集いを、平成23年9月18日、19日の2日間、田無駅前のアスタ2階センターコートで開催しました。

3月の十周年記念式典中止に伴い、感謝の集いと東日本大震災の復興を兼ねて、被災地の特産品などを市民の皆さんに販売し、収益金は被災地義援金と合せて寄付するというイベントを、西東京市の後援をいただいて実施する運びとなったものです。

会場では当センターの活動状況をパネル展示したほか、プチ縁日(綿菓子、ヨーヨー釣り)でのふれあい広場、東北物産展(釜石市、むつ市、遠野市の各SC



保谷和太鼓



ヨーヨー釣り

の独自作品、特産品など)、女性工房の作品展示販売などを行いました。保谷和太鼓の力強い演奏で華を添えていただいたほか、多くの皆様のご協力をいただき、感謝の集いは大変盛況に幕を閉じました。

民間部門も 就業5年制限へ

公共部門の同一就業5年制限を内容とする就業適正化制度は6年目となり定着してきています。一方、かねてより課題であったこの制度の民間部門への適用が、平成22年度第10回理事会(平成23年2月18日開催)で決定されました。

この際、公共部門を含む全体の実施時期等についての見直しや原則変更も決定され、公共部門適用時の一部の曖昧さを払拭しました。民間部門への実際の適用については、初年度に該当者が集中するなどの問題があるため、就業先との調整を進めて、2〜3年かけて計画的、弾力的に実施していくことで現在推進しています。

会員接遇研修会と 新入会員研修会を刷新

会員の質的向上と、就業機会の確保を目的とした2つの研修会は、19年度から実施してまいりました。23年3月末の就業会員は約900名でしたが、1128名の会員が受講されました。公益法人として再出発の23年度からは、更にステップアップを図り、あたらしく外部講師をお招きし、接遇だけでなく安全(事故防止)についても講習することになりました。すでに昨年7月26日の講習会にはほぼ満

席の80名が受講しました。全会員が3年間の内には必ず一度は受講することになります。

また、今年1月から新会員の入会方法が大幅に変更になりました。説明会は毎月の初日に、面接は15日、研修会は末日実施し、延べ3日間になります。(1回20名の予約制)すでに、昨年からは理事も事務局職員に同席して面接を実施しています。

理事・監事・班長 合同研修会

8月4日午後、保谷庁舎研修室で理事16名、監事1名、班長33名、計50名が出席し、2年ぶり、公益法人移行後初めての合同研修会が開催されました。田無警察署、しごと財団新井巡回指導員による講話のあと、「熱中症対策事業」に参加しての反省点と共に、今後の仕事に如何に反映させるか等活発な意見交換がなされました。



研修終了後、2階食堂において、理事・班長が一堂に会して、意見交換が行われました。特に新班長が半数近くおられ、お互いを理解する良いひと時となりました。

田無駅東側踏切で 事故防止のボランティア

12月14日から28日までの間、延90名の会員が田無駅そばの踏切の両側に立ち、ボランティア活動を行いました。昨秋以降西武線で人身事故が頻発、この踏切でも3件発生したことから、田無警察署の懇請に応えたものです。



シルバー会員交流会

公益法人化に伴い、会員に限定した福利厚生事業は認められなくなりました。しかしながら、会員間における交流や親睦の場はセンターの活性化のためには重要不可欠のものと思われず。そこで、22年7月、シルバー人材センターとは切り離し、独

立した自主運営組織「シルバー会員交流会」設立、親睦旅行、新年会、サークル活動を参加者負担で開催しています。また事務局職員も特別会員として参加、会員との親睦を深めています。第1回の23年の新年会(シチズンの食堂で実施)には98名が参加し、親睦旅行は22年は47名、23年は44名の参加がありました。新会員の方も気軽に参加してみませんか。



新年会



会員親睦旅行

楽しいサークル活動の紹介

楽しく無理なく安全に

シルバー歩く会
リーダー 大沢 道雄

健康は先ず歩くことから、と言われてはいます。「楽しく、無理なく、安全に」がモットーのシルバー歩く会です。自然の中で道端の可憐な草花の名前を教わり、時に冗談が飛び交う会話を楽しみ大声で笑い、多くの人とのお会いを大切にしながら、気づかないうちにかなり歩いていることに驚いています。

この会も平成17年の秋に多くの先輩方のご尽力で発足、以来7年目になります。回を重ねこの正月で69回目になりましたが、その間無事故です。現在の会員数は50名位ですが、月1回の歩く会では就業その他の都合で20名から30名ほどの参加者があります。年に1度は大型観光バスをチャーターして行う一泊ウォーキング旅行も好評で、昨年は30数名の参加で信州へ行って来ました。また、12月には忘年会も盛大に行っています。

一人では歩けなくても、大勢で歩くと意外に歩けるものです。歩行距離は8〜10キロ程度です。



両国から浅草まで歩く、水上バスで浜離宮へ
(浜離宮にて撮影)

写真を撮って健康に

写真の会
リーダー 佐久間 二郎

人生の楽しみ方は人それぞれですが、人との出会いを大切に健康な人生を楽しみましょう。

写真の会は親睦と健康維持を目的に活動しています。四季の彩りを地元中心に、自然を満喫しながらの楽しい撮影会をします。

最近のカメラは良くできており、誰でもシャッターを押せば手軽にプロ並みの写真を撮ることが出来ますが、いざ写真を撮ってみると奥が深いものです。また、公園などに写真を撮りに出掛けると適度の運動にもなります。

被写体を前にどのアングル(角度)からどう撮ったら良い写真が撮れるかなど思考力を高めることで、脳を活性化させると言われています。

カメラに収める被写体は無限にあります。健康のためにもカメラを持って出掛けましょう。



撮影旅行中の写真の会
(神代植物園にて撮影)

ご入会をお待ちしています

歌って謳歌しよう人生を

シルバーカラオケ愛唱会(SKA)
リーダー 浅井 信夫

カラオケをこよなく愛する仲間と共に、新年を迎え新しい気持ちで、若い心と健康を保ちながら、楽しいカラオケを歌い続けます。

「がんばろう！カラオケ仲間！日本の復興を！」をキャッチフレーズに、保谷こもれびホールで行われた西東京市民文化祭に当会より5名が参加し、日頃の練習成果と歌唱力を存分に発揮し、他の団体との交流も図れました。

集まれ！歌い仲間、会員諸君！
声を出す、歌を歌う、人生を謳歌しましょう！
皆さんの見学、練習会への飛び入り、大歓迎です。

各サークルで会員募集中！



市民文化祭会場でのSKAメンバー
(こもれびホールにて撮影)

声(こゑ)

大声・小声、独り言

時は休みなく刻まれて、今は平成24年を歩み出した。人は気にかかることに自問自答し、それを日々繰り返す。声には出さず、独り言なのだ。この限りにあつてはさしたる問題はない。せいぜい、怠けてるんじゃない、何をしているんだと小言が落ちる。問題なのは、他に対する行動となつたときである。人には、また表裏があり、裏は隠されることがあつて不可解な部分をもっている。大声は沢山あつた。思い出すと「影の内閣で準備」「政権交代を」「最低でも県外に」「低濃度だから海へ流しても問題ない」「...と同様、段階的に10%アップを」など。ここにはリーダーの意気や夢、困惑などがあつた。

小声は届きにくい。「大金が入る日を知らせろ」「指定する口座に〇〇億円入れる」「ヘッドコーチについては報告」「愛を告白し挙式は5月5日に」等があつた。独り言は、わからない。善も悪もある。良い内容の声があちこちで出たらと思う。

(向台町 田中成和)

夕焼け・朝焼けの富士山

富士山。日本人なら誰でもと言つていいほどこの山を好み、登り、撮り、描く、詩につづる人も多いことでしょう。

夢で見る富士は無理ですが、私は近くの都営住宅の5階踊り場にカメラ持参で行き、よく夕焼けの富士を見ています。丸く赤くなつた太陽が富士の山頂に昇り、ダイヤモンド富士になります。すばらしい輝きを放ち、オレンジ色に変化しながら山の向こうへと姿が消えた後には、やがて暗い空が赤くなり、誰かが絵の具で塗っているように広がります。こんな時は心

が温かくなり、つい微笑んでしまいます。また、オレンジ、イエローにと変化し、約10分間程の夕焼けのショーはすばらしいひとときです。

朝焼けの富士は、寒い中、早起きをして見に行きます。大泉方面より朝日が顔を出し、少しづつ空が赤く染まってきました。そのとき、反対側の富士を見に踊り場へ走ります。白いドレスを着た富士山が朝日を受けてピンクのドレスに着替え、とても静かで可愛い姿になっています。

私の楽しみの一つ、富士山の写真には、右側に高層マンションが1本、左側には田無タワーと大型マンション群がセットで写り込んでいます。季節的には1月前後が一番美しいですね。

(ひばりが丘 菊池喜枝子)

お毒味役

内閣政務官が記者の挑発に乗せられて、放射能汚染浄化水を飲む羽目に落ちたのは実にお気の毒と思います。〇157カイワレ大根BSE牛肉の場合は、大臣自らの点数稼ぎで食べたのでしょうか。

25年ほど前、東南アジアの地方都市に単身赴任した時、地元の上水道水は蛇口から出てくる頃には薄茶色になっており、煮沸しないと歯みがき用にも使えませんでした。ある日、本社の手配で隣国所

在の日系企業の日本人営業マンが、私の家に浄水器を設置にやってきましたが、私は出勤中なので2人のメイドが取り付け工事に立ち合いました。メイドの話によると、取り付け工事の後、営業マンは浄化水を自分で数杯飲んでから、彼女たちも飲むように勧められたが断つたとのこと。営業マンとしては自社技術に自信があつたのか、売上増進のため多少のリスクを覚悟していたのかは知りませんが、ハッキリしていることは、営業マンは飲み水を飲んだのですが、政務官殿は散水用の水を飲まされた

のです。なお、メイド達はその後毎朝浄化水の湯冷ましを入れたやかんを洗面台に置いてくれました。私が病気になるまで、彼女たちが失業しないためだけではないと信じています。

(ひばりが丘 宮崎政雄)

原子爆弾と原子力発電

昭和20年8月6日、私は父(昭和19年死亡)の赴任先の広島で3歳の時に爆心地から3km離れた宇品で被爆した。長女と次兄はそこから一歩遠い動員先で命拾いましたが、長兄は約2km程の広島工専で短縮授業を受けている最中に被爆した。彼は頭傷を負いしばらく吐き気を催したようであるが、生き永らえている。

昼前に私も母に連れられて長兄を捜しに学校に向かったが、家から近い通学路に当たる広陵中学辺りで出会ったそうである。幸い私には原爆の記憶はない。母はバセドウ病で84歳で亡くなった。

因みに長兄の原爆体験記を見ると、しばらく気を失っていたせいと新型爆弾の爆発との噂で2、3日は原爆とは思わなかったようで、おおよそ緊迫感のない体験記となっている。

ところで、原爆のように瞬間的な爆発で多数の死者を出すのも残酷であるが、津波が起爆剤となつて目に見えない長期爆発を起している福島原発は、遠い将来に涉つて莫大なツケが全世界に回るに違いない。

平和とは一体何であろうか。曾野綾子氏によれば「平和というものは全て仮初めのものである。恒久平和などというものはこの世にないもので、軍備は備えて、それを使わない様にした方がよい」と言及している。

真の愛もそうであるが、平和もただに望みの対象でしかないということでしょうか。

(北町 金石興東)

事務局の職群・職種担当表 (平成23年12月現在) 【敬称略】

Table with 4 columns: 区分, 業務内容, 担当次長, 窓口・担当者名. Rows include 広報配布, 選挙関係, 小・中学校施設管理, 小学校交通擁護, 小・中学校校地内外清掃, 小学校環境維持管理, 福祉会館清掃及び保安4館, 市民集会所清掃13箇所, 地区会館清掃, 高齢者施設きらら清掃, 生活介護施設清掃, 消費者センター保安, 保育園清掃, 保育園床清掃, 広報掲示板掲示, コミュニティセンター清掃, 放置自転車整理指導, 自転車保管所管理, 多摩六都科学館駐車場管理, 公園維持管理, 老人いこいの家管理, 市民農園清掃季節契約, 美化・喫煙マナー推進業務, 植木剪定, 襖・障子等張替え, 除草, 大工, 塗装, 家事援助, 筆耕, 民間業務, 障害者福祉センター管理, 各種教室・各種講座(西原・東伏見), 各種教室(パソコン), リフォーム, エコプラザ.

みんなで達成「事故ゼロ」

私たちの就業は、家を出て仕事場に向かい、勤務を終えて家に帰り着くまでが無事故であることが約束されなければ、「働くことを通じて社会参加と生き甲斐の充実」は達成されません。安全とは、本来「人から言われたから気をつける」といった性格のものではありません。それでは、「誰が安全を確保するのか」といえば、それは就業の

当事者である会員自身ということです。会員一人ひとりが、日常生活の中で日頃から安全に対する意識を持っていただくことで「事故ゼロ」安全就業は達成されます。年頭にあたり、今年は会員の皆さん全員が、無事故であると同時に、ご健康であることをお祈りいたします。(安全管理委員会 福森泰吾)

シニアのためのパソコン教室

★平成24年2月、3月 講座日程★

Table with 3 columns: 講座名, 開催日, 申込期限. Rows include 無料講座, 入門講座, 活用講座, ワード初級, エクセル初級, 無料講座, 入門講座, 活用講座, ワード中級, エクセル中級.

受講料：入門講座、ワード初・中級、エクセル初・中級、各¥6,000 活用講座、各1回¥1,500(全てテキスト代込)

会場：シルバー人材センター東伏見教室

時間：午前9:30~12:00 午後1:30~4:00 但し、無料講座のみ午後1:00~4:00

申込：往復はがきで、講座名、受講日、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記へ(※切日必着)※締切り後でも受講可能な場合がありますので、お問い合わせください。

宛先：西東京市シルバー人材センター パソコン班 〒202-0013 中町1-6-8 保谷東分庁舎内 TEL 042-425-6611



(事務局写真) 各列とも右より
前列：井砂、白井、林田、津田
後列：井上、下田、山田、本橋
(円内) 岩淵 平松 (敬称略)

『西東京シルバー』
2月は休刊します

事務局職員一同

- | | | |
|---------|-----|------|
| 嘱主主主主主主 | 次次 | 常務理事 |
| 託事事任任任任 | 長長 | 事務局長 |
| 平本林井下山岩 | 津井岩 | 白井 |
| 松橋田砂田淵淵 | 田上 | 津田 |
| 妙昌佐浩武聖政 | 和 | 和 |
| 子紀理子司郎美 | 夫 | 夫 |

今年も役職員・事務局職員一同、力を合わせてよりよいセンター運営に向け取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。



会員親睦旅行(平成23年11月23日・24日)(上田城趾にて撮影)

慎んでお悔み申し上げます
中町1 藤森伸允様

移動
新ひばりが丘1 山寺養藏
旧住吉町 藤井秀敏
新住吉町 藤井秀敏
旧ひばりが丘2

退会
北町 小林信一郎
泉町 片桐満子
栄町・ひばりが丘北 砂押貴美子
栄町・ひばりが丘北 砂押宏明
谷戸町 大屋敏幸
西原町 大槻和子
芝久保町 清水一夫
田無町 西村貞男

1月就業の配分金は2月15日(水)に振り込まれます。
2月就業の配分金は3月15日(木)に振り込まれます。

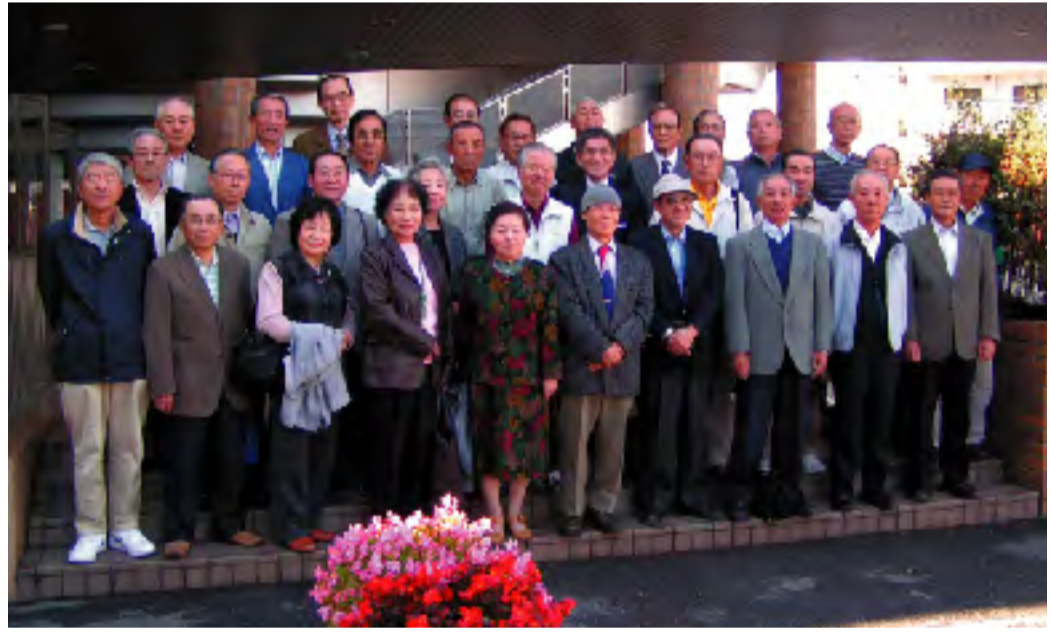
理事会一同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-----|------|------|------|-----|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|--------|---------|----------|------|------|------|
| 監事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 業務執行理事 | 代表理事・会長 | 代表理事・副会長 | | | |
| 白瀬有希子 | 石田安雄 | 松川聡 | 渡邊康生 | 横内京子 | 山田隆司 | 柳沢進 | 宮本康雄 | 丸山弘明 | 堀康隆 | 古屋貞子 | 福森泰吾 | 藤倉厚生 | 藤井郁子 | 樽井秀夫 | 篠内正一 | 佐藤勝司 | 小倉典子 | 岩崎英身 | 白井清美 | 澤田壽弘 | 下栗庸隆 |



(役員写真) 各列とも左より(敬称略)
後列：藤倉、小倉、佐藤、山田、宮本、堀 (円内) 柳沢、藤井
中列：渡邊、石田、篠内、岩崎、福森、古屋、樽井
前列：白瀬、横内、白井、下栗、澤田、丸山、松川

希望を持って未来へ
笑顔で今年もよろしく



班長会議のあとで全員集合(こもればいホール前にて撮影)

就業相談会
1月26日(木)13時半から
センター会議室で開催
※予約制
ご希望の方は、事前にセンター事務局までご連絡願います。

男性	九二五名
女性	四五八名
合計	一、三八三名

(12月22日現在)

俳句
ダイズ二一の賀状届きて 孫愛し
新春に 復興祈る 被災地よ
辰年に 嫁いだ春は 金婚や
富士町 染谷真紀

川柳
門松に 清き大和人の ころあり (日本人の感性を)
初詣 白き吐息に 力みる (寒中、夢多き初詣)
夢のなか 白き梅子と 里訪ね (とても色白の娘さんだった)
向台町 かずのこ

五行歌
元旦に 目減りするほどに 肩寄せ合う
湧きあがる 古希の今
熱きもの抱き ささやかに酌交す
春夏秋冬の 道程を行く 元旦の膳
南町 平山紀美子

☆編集後記☆
多くの方々にご協力いただき、この新年号を発行することができました。お礼を申し上げます。
今回は、様々の大きな出来事が続いた昨年1年間を、見開きのページに、写真をまじえて特集しました。大震災からの早期の復興を祈念しつつ、今年これからの糧にできますれば、と希っております。
本号冒頭の写真は、広報部会の樋口会員が撮影したものです。
(広報部会)



平成23年11月分 事業実施状況

	受託件数	就業人員			契約金額
		実人員	延実人員	延日人員	
公共事業	52		2,000	8,773	25,792,803
民間事業等	569		2,612	7,536	23,710,002
合計	621	949	4,612	16,309	49,502,805

職群別就業延日人員表(平成23年11月分)

1 技術群	205	5 折衝外交群	156
2 技能群	1,234	6 一般作業群	3,838
3 事務群	220	7 サービス群	7,092
4 管理群	3,564	8 その他	0
		合計	16,309

就業率 男 67.0% 女 70.9% 平均 68.3%